

授業科目	成人看護学概論	担当講師	専任教員（実務経験のある看護師） 非常勤講師（実務経験のある保健師）
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	成人期にある対象の特徴を身体面・心理面・社会的側面から理解する。 成人保健の動向について理解する。 成人各期の健康問題を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「成人看護学総論」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 成人の特徴	6	1 生涯発達から見た大人の身体的・心理的・社会的特徴 1) 青年期：大人になること 2) 壮年期・中年期：大人であること 3) 向老期：老年期への移行 2 エリクソン・ハヴィガーストによる発達理論	
2. 成人期の生活	2	1 働いて生活を営むこと 2 家族機能、家族形態	
3. 成人への看護アプローチの基本	2	1 アンドラゴジー 2 コンプライアンス、ノンコンプライアンス 3 アドヒアランス	
4. ヘルスプロモーションと看護	10	1 地域社会・職業におけるヘルスプロモーション 2 健康増進のための環境づくり 1) 健康日本21 2) 健康増進法 3) 特定健康診査・特定保健指導 4) 労働基準法・労働安全衛生法 5) ワークライフバランス	加賀市保健師による講義  「国民衛生の動向」を参考図書とする。
5. 成人各期の健康問題と看護	8	1 メタボリックシンドローム 2 喫煙 3 アルコール 4 性感染症（HIV・AIDS） 5 更年期障害	
6. 統計からみた成人期にある人の健康特性	2	1 年齢3区分別人口構成割合 2 死因順位 3 性・部位別にみた悪性新生物の年齢調整死亡率 4 有訴者率・通院者率	

授業科目	成人看護学方法論 I	担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・15時間
科目目標	手術療法、化学療法、放射線療法、集中治療、人工呼吸療法について、その目的と援助の実際について理解する。		
使用テキスト	新体系看護学全書「臨床看護総論」メヂカルフレンド社 新体系看護学全書「周術期看護」メヂカルフレンド社 新体系看護学全書「基礎看護技術Ⅱ」メヂカルフレンド社 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 周手術期とは	2	1 周手術期の概念 2 周手術期にある患者と家族 3 周手術期にある人の看護	校内実習
2. 手術療法を受ける患者の看護	8	1 手術前の全身状態のアセスメント 2 手術を受ける患者の心理状態と看護 3 術前オリエンテーションの目的とその内容 4 手術に向けた身体準備（術前処置、術前訪問） 5 手術室の安全管理 6 器械出し看護師、外回り看護師の役割 7 術後合併症に対する予防策と発症時の対応 1) 早期離床の促進 安静療法が患者に及ぼす弊害との関連性 2) 疼痛対策 3) 感染対策（創傷管理） 4) ドレーン管理 8 ムーアの生体侵襲理論	
3. 化学療法・放射線療法を受ける患者の看護	2	1 化学療法と放射線療法の特徴 2 化学療法を受ける患者への看護 副作用出現時の対応 3 放射線療法を受ける患者への看護 有害事象出現時の対応	
4. 集中治療と看護	1	1 集中治療が患者に及ぼす弊害 2 集中治療を受ける患者への看護	
5. 人工呼吸療法と看護	1	1 人工呼吸療法が患者に及ぼす弊害 2 人工呼吸療法を受ける患者への看護	
	1	試験	

授業科目	成人看護学方法論Ⅱ	担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	急性期にある成人患者の特徴、および疾病・障害の状態に応じた援助方法を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「成人看護学総論」医学書院 系統看護学講座「消化器」医学書院 系統看護学講座「循環器」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 急性期とは	2	1 急性期の概念 2 急性期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴 3 急性期看護	
2. 生命の危機的状態にある消化器疾患患者の看護	14	1 胃がんの治療を受ける患者への看護 胃切除術後の食支援 2 大腸がんの治療を受ける患者への看護 1) 人工肛門造設術を受ける患者への支援 2) ストーマケアサイトマーキングの条件 3) ストーマケアの方法 3 腸閉塞患者への看護 腸閉塞の種類に応じた看護 4 肝硬変患者への看護 肝機能低下、代謝能低下、門脈圧亢進による症状とその看護 5 胆石 1) 胆石発作の予防に対する看護 2) 胆嚢摘出後の患者の看護 6 急性膵炎、慢性膵炎の患者の看護 急性膵炎と慢性膵炎の特徴に応じた看護	解剖整理、病態生理、症状と看護を関連付ける
3. 生命の危機的状態にある循環器疾患患者の看護	14	1 虚血性心疾患患者の看護 1) 心筋梗塞と狭心症の特徴に応じた看護 2) 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護 3) 心筋梗塞後の合併症に対する看護 4) 心臓リハビリテーションの目的と看護師の役割 2 心不全患者の看護 身体の変化および症状に対する看護 3 不整脈患者へ看護 1) 致死性不整脈に対する対応 2) ペースメーカー植込み術後の看護	解剖整理、病態生理、症状と看護を関連付ける

授業科目	成人看護学方法論Ⅲ	担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	慢性期にある成人患者の特徴、および疾病・障害の状態に応じた援助方法を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「成人看護学総論」医学書院 系統看護学講座「内分泌・代謝」医学書院 系統看護学講座「腎・泌尿器」医学書院 系統看護学講座「アレルギー 膠原病 感染症」医学書院 新体系看護学全書「臨床看護総論」メヂカルフレンド社		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 慢性期とは	2	1 慢性期の概念 2 慢性疾患の特性 3 慢性期にある患者の心理・社会的特徴 1) 病みの軌跡理論 2) 疾病の受容過程 4 慢性期にある患者の家族	演習
2. 自己管理を必要とする成人患者の理解と援助方法	4	1 セルフケアマネジメント 2 エンパワーメント 3 健康信念モデル 4 変化のステージモデル 5 自己効力理論	
3. 対象の自立・自律を促すための学習支援技術の方法	8	1 看護の中に含まれる指導 1) 対象のニーズの把握（看護理論の活用） 2) 学習支援の目標 3) 教材 2 対象のニーズに応じた指導計画立案、実施	
4. 疾病コントロールを必要とする患者	16	1 内分泌疾患患者の看護 1) バセドウ病 甲状腺切除術を受ける患者の看護 2) クッシング症候群 3) 甲状腺機能低下症 甲状腺ホルモン剤服用中の看護 4) 副甲状腺機能亢進症 高カルシウム血症予防のための看護 2 代謝疾患患者の看護 1) 糖尿病 血糖コントロールするための看護 2) 痛風 尿酸値コントロールするための看護	

		<ul style="list-style-type: none"><li>3 腎機能障害患者の看護<ul style="list-style-type: none"><li>1) ネフローゼ症候群患者の看護</li><li>2) 腎不全疾患患者の看護<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 食事療法への支援</li><li>(2) 活動制限への支援</li><li>(3) 血液透析を受ける患者の看護</li><li>(4) 腹膜透析を受ける患者の看護</li></ul></li></ul></li><li>4 尿路結石症患者の看護 体外衝撃波結石破碎術を受ける患者の看護</li><li>5 膠原病患者の看護<ul style="list-style-type: none"><li>1) ベーチェット病</li><li>2) 全身性エリテマトーデス</li></ul></li></ul>	
--	--	--	--

授業科目	成人看護学方法論Ⅳ	担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	回復期にある成人患者の特徴、および疾病・障害の状態に応じた援助方法を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「成人看護学総論」医学書院 系統看護学講座「呼吸器」医学書院 系統看護学講座「脳・神経」医学書院 系統看護学講座「運動器」医学書院 新体系看護学全書「臨床看護総論」メヂカルフレンド社		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 回復期とは	2	1 回復期の概念 2 リハビリテーション看護の概念 1) 回復期とリハビリテーション 2) リハビリテーションの場とチーム医療	
2. 障害がある成人患者の看護	2	1 障害がある人の人権に関わる考え方 2 障害を負った人の心理・社会的特徴と看護 1) 自己概念、ボディイメージ 2) コーアの障害への心理過程 3) 障害がある人への社会資源	
3. 呼吸障害がある患者の看護の実際	8	1 肺結核患者の看護 2 慢性閉塞性肺疾患患者の看護 酸素療法を受ける患者の看護 3 肺がん患者の看護 気管支鏡検査時の患者への看護 4 自然気胸患者の看護 5 気管支喘息患者の看護	
4. 運動障害がある患者の看護の実際	8	1 骨折患者の看護 2 変形性関節症患者の看護 3 脊髄損傷患者の看護 4 関節リウマチ患者の看護 5 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 6 骨粗鬆症患者の看護	
5. 脳・神経障害がある患者の看護の実際	10	1 脳機能障害がある患者の回復過程における看護 2 頭蓋内圧亢進の予防に対する管理 3 くも膜下出血患者の看護 4 水頭症患者の看護 5 脳梗塞患者の看護 6 脳腫瘍患者の看護	

		7 パーキンソン病患者の看護	
--	--	----------------	--

授業科目	成人看護学方法論V	担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	終末期にある成人患者の特徴、および疾病・障害の状態に応じた援助方法を理解する。		
使用テキスト	新体系看護学全書「終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」 メヂカルフレンド社		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 終末期とは	2	1 死の概念 2 終末期の概念 3 終末期医療の現状	
2. 終末期にある患者への看護	4	1 終末期にある患者の苦痛 2 終末期にある患者への看護 3 終末期における倫理的課題	
3. 終末期患者を抱える家族への支援	2	1 家族の苦悩・苦痛 2 看護師の役割 3 悲嘆と家族ケア	
4. 臨死期の看護	2	1 臨死期の理解 2 臨死期における看護の役割 3 臨死期の症状マネジメント 4 臨終前後の看護	
5. 緩和ケアの実際	6	1 緩和ケアの定義 2 痛みとは 3 グリーフワーク 4 事例紹介	がん性疼痛看護認定看護師
6. 緩和ケア、癒しの看護を考える	10	1 グループワーク：事例患者のケアを考える 2 発表	演習
7. がん患者の看護	4	1 女性生殖器疾患患者の看護 1) 乳がん患者の看護 2) 子宮がん患者の看護 2 男性生殖器疾患患者の看護 前立腺がん患者の看護 3 血液・造血器疾患患者の看護 1) 白血病患者の看護 2) 貧血、易感染状態、出血傾向にある患者の看護	